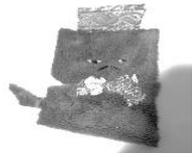


学年	教科等	題材名	日時
第3学年	図画工作科	ぬのでえがくと（第2時）	令和8年2月6日（金）

1 本時の目標

布の形や色、質感から、自分のイメージをもち、表したいことを見付け、どのようにして表すかを考えることができる。

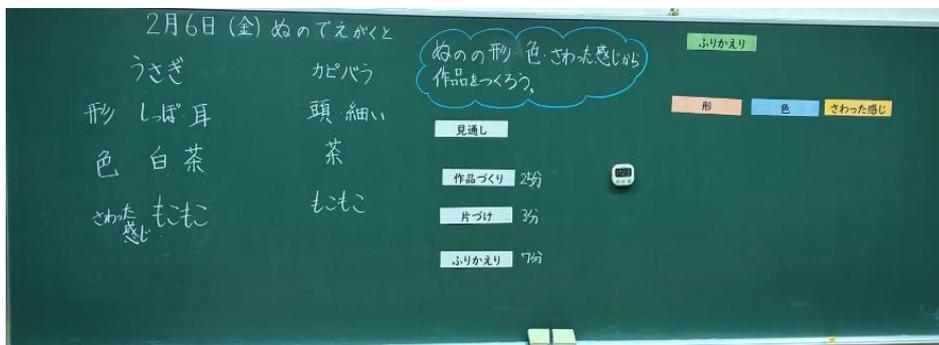
2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 前時の学習内容をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 試しの作品 ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>布の特徴から、つくりたいものを見付けて、作品をつくろう。</p> </div> <p>2 本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の見通し <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品製作→片付け→ふりかえり <p>3 布を触ったり、並べたり、組み合わせたりして、表したいことを見付けて作品をつくる。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 布の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「触り心地がよいから、ふわふわした布にしたいな。」 ・ 「花が好きだから花柄の布を使おうかな。」 等 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【ふわふわした布】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【花柄の布】</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 布の組合せ方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふわふわした布が猫の毛みたいだな。猫にしてリボンもつけてみよう。」 <div style="text-align: center;">  <p>【布の重ね方】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「花柄の布をたくさん並べると、お花畑になったよ。」 <div style="text-align: center;">  <p>【布の並べ方】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「布を結ぶと蝶みたいだね。」 <div style="text-align: center;">  <p>【布の結び方】</p> </div> <p style="text-align: right;">等</p> <p>4 自分の作品をタブレット型端末で記録し、本時の学習をふりかえる。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や仲間の作品のよいところ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「この猫はリボンをつけていてかわいいね。」 ・ 「〇〇さんの作品は、いろいろな魚がいて、海の中にいるみたいだね。」 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に撮影した子どもの試しの作品の写真を、大型テレビを用いて提示し、対話することで、布の特徴に注目し、「布の特徴を生かして作品をつくりたい」等の思いをもつことができるようにする。 ○ 本時の活動内容と所要時間について、子どもと対話しながら決定していくことで、本時の学習を自分事として捉え、見通しをもって本時の学習に臨むことができるようにする。 ○ 前時に撮影した子どもの試しの作品の写真を、タブレット型端末で提示し、いつでも見返すことができるようにしておくことで、仲間の作品を見て、自分のイメージを広げることができるようにする。 ○ 布を図工室中央の机等に置いておくことで、材料を取りに行く際に、仲間の様子を見たり話を聞いたりしながら、仲間の作品のよさを見付けて取り入れ、よりよい作品をつくりだすことができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの様子に合わせて以下の手立てを講じる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色、質感等の造形的な視点で、布について尋ねることで、布の特徴を言語化し、表したいことを見付けて、布の組合せ方を工夫して作品をつくろうとすることができるようにする。 ・ 同じ種類の布を選択したり、同じ考えをもっている子ども同士をつなぐような言葉かけをしたりすることで、仲間とのかかわりのなかで、布の組合せ方のイメージを広げることができるようにする。 ・ 作品ができた過程や、「これからどうしたいのかな。」等と尋ねることで、自分の思いを明確にさせ、自分にとって、よりよい作品をつくることができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 布を選んだ理由や、感想を伝え合ったりする時間を設定することで、自分の作品のよさを自覚することができるようにする。

3 本時の評価規準

布の形や色、質感から、自分のイメージをもち、表したいことを見付け、どのように表すかを考え、表したもののについて仲間に伝えている。
(思考・判断・表現)【行動観察・行動分析・作品】

4 板書等



【図工室中央の机に集まり布を選択する姿】

5 指導講評

宮崎県教育研修センター 緒方 宏文 指導主事

- 言葉かけについては、言葉かけによって表出した姿なのかそれ以外が要因なのかを整理する必要がある。撮影した映像等を丁寧に分析してほしい。
- 初めにつくったものから、何度も並び替えたり布を変えたりし、作品が5回程変わった子どもがいた。この子どもは、「かわいい」というテーマで作品を製作しており、自分の作品だけではなく、仲間の作品も同じ視点で見ながら、つぶやいたり対話したりする姿が見られた。別の子どもは、「ねこをつくる」という明確な思いをもって製作していた。どこに顔を置くとよいか、どのように布を重ねるとよいかと試行錯誤する姿が見られた。どちらの子どもも、「つくり、つくりかえ、つくる」姿であった。
- 図画工作科学学習においては、材料が欠かせない。材料を事前に準備するのか、偶然出会った材料を生かすのか、子どもの実態に合った方法を、今後も模索してほしい。その際、題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にすることが大切である。
- 1単位時間のなかで、全員を評価し、言葉かけをしていくことは難しいだろう。題材全体、1年間を見通して、一人一人丁寧に言葉かけをしながら、評価につなげていけるとよい。

6 考察

【研究内容1：「自分にとって新しいものやことをつくりだしていく」ための働きかけの工夫】

① 間接的に働きかける学習環境の工夫

- 本題材では、図工室中央の広い机に、形や色、質感の異なる多様な布を置いた。そうしたことで、布を探しにきた仲間とともに、布をつかんだり、投げたり、集めたりするなどといった行為をとおして、布の形や色、質感を十分に感じていた。そのため、布の形や色、質感について、仲間と対話しながら布を選び、表したいことを見付けていく姿が見られた。このことから、仲間とかかわることができるように材料や場の設定を工夫することは、自分にとって新しいものやことをつくりだしていく姿につながると考える。
- タブレット型端末を使用して互いの作品を見合うことができるようにした。しかし、タブレット型端末を見るよりも、仲間と直接かかわる姿が見られた。このことから、作品製作中は、直接仲間とかかわるよう促す方が効果的であると考え。タブレット型端末の利点は、短時間で互いの作品を見合うことができる点である。そのため、導入や活動後のふりかえりの時間におけるタブレット型端末の活用は有効であると考え。また、作品製作中、大型テレビを使い、子どもの作品をスライドショーにして流したことで、一部の子どもは画面を眺める様子が見られた。画面上で気になった仲間の作品を、直接見に行くなどの姿につながる可能性もあるため、今後もこの手立ての有効性を検証していく必要がある。

② 子どもに直接働きかける言葉かけの工夫

- 発想や構想ができず、活動が停滞する子どもがいた場合、本人とそのグループの仲間に「ここから先どうすればいいかな。」等の言葉かけを行った。そうしたことで、仲間とかかわりながら、自分にとって新しいものやことをつくりだしていく姿が見られた。また、発想や構想を繰り返し、活動している子どもに対しては、見守ることに徹したが、共感するなどの言葉かけをしながら、評価につなげていくことも検討する必要がある。今後は、めざす子どもの姿や身に付けさせたい資質・能力をさらに明確にしたうえで、どのような場で、どのような子どもに対して言葉かけをするのかを深めていきたい。